CAPE
#18
GENERAL CATALOG

安全に関する注意事項
ご使用前に取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

Homepage of LOVING CARE CAPE
http://www.cape.co.jp/
商品に関する詳しい情報は、ケープのホームページをご覧ください。

介護保険における福祉用具の貸与に関しては、
居宅介護支援事業者等までお問い合せください。

＊ 製品の仕様・価格は予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。
＊ 印刷の関係で実物とは色が違うことがあります。
＊ 記載の価格は全て、メーカー希望小売価格です。
＊ メディ・ウォッシュは、一般医療機器の「特定保守管理医療器」に属します。
お取り扱いいただく場合には、高度管理医療器販売業賃貸業許可が必要です。

■製造販売元　株式会社 ケープ

本　　社／〒238-0013 神奈川県横須賀市平成町 2-7
TEL : 046-821-5511(代)　FAX : 046-821-5522
E-mail : lovingcare@cape.co.jp

福岡営業所／〒810-0014 福岡県福岡市中央区平尾 2-17-20
TEL : 092-521-0421　FAX : 092-521-0399

お問い合せ先

このカタログの記載内容は、2015年4月現在のものです。　1504-B

CAPE
#18

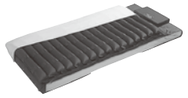
ケープ総合カタログ Vol.18

GENERAL CATALOG

With Evidence-Based Development,
we strive for better nursing care

LOVING CARE CAPE
褥瘡0(ゼロ)をめざして

1987



国産初−圧切替型エアマットレス
「スタンダードマット」発売

1987

一体成形型
「パルセア」発売

1992

三連圧切替−トリプルシステム搭載
「コスモエア」発売

1994

マイコン制御圧力センサー搭載
「エアドクター」発売

1997

日本人の骨突出への対応
完全独立二層式
「ビッグセル」発売

1999

日本での療養環境に対応
背上げモード機能付
「トライセル」発売

日本の床ずれ対策の進化とともに。

1987年、国産で初の圧切替型エアマットレスを開発して以来、ケープは「床ずれのない快適ケアの実現」という原点を見つめながら、オリジナルのエアマットレスを開発してまいりました。優れた体圧分散性能を実現する日本初の「三連順次圧切替システム」をはじめ、「骨突出」や「頭側挙上」に対応する機能など、ケープは常に日本の創傷看護・ケアの進化を見つめ、それを支えてきました。
そしてこれからも、幅広いリスクへの対応や安全性の強化といった新たな課題に取り組み、時代の要請に応える技術を生み出しながら、日本の療養環境の改善に寄与してまいります。

2001

QOLと体圧分散を両立
自立支援対応 超薄型
「アクティ」発売

2002

体位変換アシスト機能の開発
自動体位変換機能付
「ネオ」発売

2003

あらゆる個別リスクへの対応
超低圧保持型
「ビッグセル-エキスパート」発売

2007

幅広いリスクへの対応
高機能マルチエアマットレス
「ネクサス」発売

2012

安全性・個別性の追求
超高機能エアマットレス
「ビッグセル インフィニティ」発売

2014

オート機能でより使いやすく
進化系高機能マルチエアマットレス
「ネクサスR」発売

より快適で
さらに安全な療養生活のために
広がるケープの製品ラインナップ。

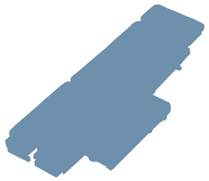
エアマットレス

p07~

ウレタンフォームマットレス

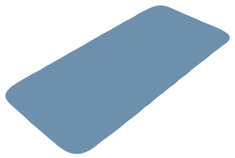
p17~

専門分野
ウレタンフォームマットレス



p29~

マットレス用シーツ



p31~

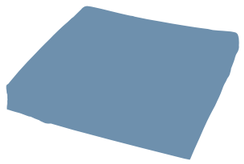
携帯型接触圧力測定器

p35~

補助用具

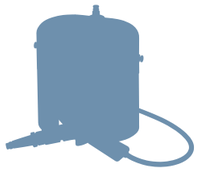
p37~

車いす用クッション



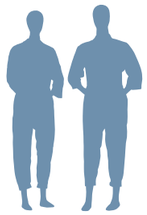
p41~

生体用洗浄器
(医療従事者向け)



p44

介護用品

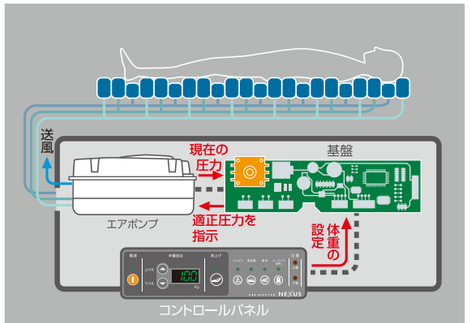


p43

Evidence-Based Development

ケープの技術は、臨床現場との共同研究によって開発されています。
エビデンスに基づく機能だからこそ、床ずれ対策への正しいアプローチができるのです。

個別圧力管理のために



エアセル内の内圧をエアポンプ内蔵の圧力センサーが電子制御。ケープ独自の内圧管理方法によって療養者の体重に合わせた理想的な体圧分散環境をつくり出すことができます。

5Kgきざみに体重設定ができるため、パーソナルな内圧管理を実現します。

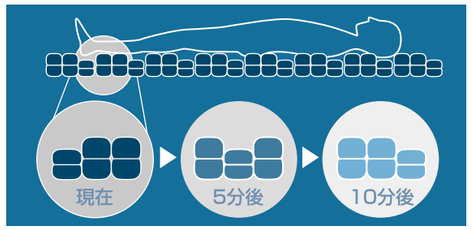
過少体重から過体重まで安心サポート
・ビッグセル インフィニティ、ネクサスR／20Kg～120Kg

ケープ圧力管理システム
体重を設定するだけで、最適な体圧分散管理を実現

体圧分散のために

デュアルフィットセル®
凸凹感を減少し、QOLの向上と安全性を両立

完全独立二層式エアセル
体圧分散効果の向上と底づき回避



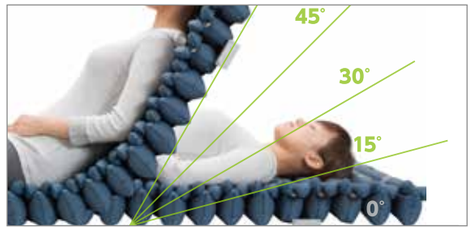
三連圧切替 –トリプルシステム
保持面積拡大と安定感の向上

環境のために

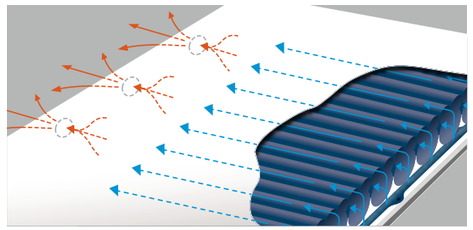
ウレタンフィルム素材エアセル
エアセルは一本ずつ交換可能

エコモード
コントロールパネルを消灯することで消費電力を最大20%削減

快適のために



自動ヘッドアップ対応機能
ヘッドアップ角度を検知して内圧と動きを自動調整



換気システム
空気を循環させてマット内の湿気や熱を排出

クイックハードモード
波動を停止し内圧を高めて、床面を安定

プラス専用パッド
エアマットレス内の足元部分のひえに対応

安全のために

光サイン
動作状況が遠方からでも確認可能

停電対策機能
停電時にエアセル内の空気漏れを自動で遮断

CPR対応機能
約25秒で心肺蘇生運動開始が可能

キーロック
ボタン操作をロックし誤動作を防止

床ずれ対策　11のポイント

points 11

1 発生原因

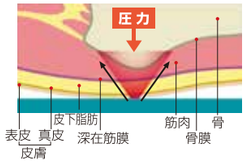
主な原因は体重の骨突出部位への圧力集中です。

■体重の集中（圧力）
骨の突出した部位は局所へ圧力が集中しやすく、床ずれ発生危険度が高くなります。

■圧力（ずれ・摩擦）などの物理的外力の継続（時間的継続性）
局所への圧力の集中が長時間続くと、血流が阻害され皮膚がダメージを受けます。

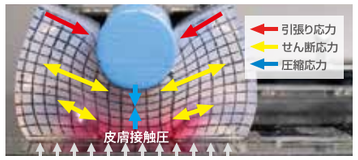
床ずれの発生 ＝ 圧力 × 時間

骨突出部に加わる力



2 圧力と応力

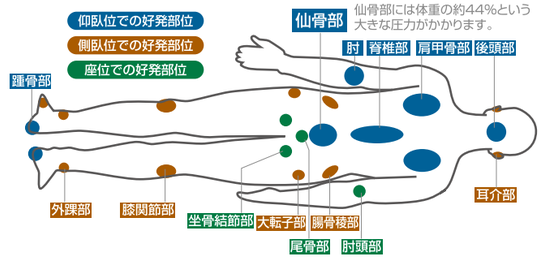
応力とは、圧力、ずれ、摩擦などの物理的外力に対して、皮膚組織内に発生する力のことです。



ゲルによる皮膚組織の模式図

3 好発部位

体位によって圧力が集中する箇所が異なります。



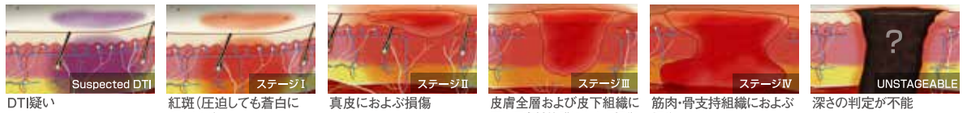
4 床ずれの分類

「創」を評価するスケールは様々なものがあります。

【深達度分類】

■NPUAP分類ー予防を重視し、看護の領域で主に使用

National Pressure Ulcer Advisery Panel(全米褥瘡諮問委員会)



DTI疑い　紅斑（圧迫しても蒼白にならない）　真皮におよぶ損傷　皮膚全層および皮下組織に至る深在性筋膜におよぶ損傷　筋肉・骨支持組織におよぶ損傷　深さの判定が不能

※Suspected Deep Tissue Injury
圧力およびまたはせん断力によって生じる皮下軟部組織の損傷に起因する、限局性の紫または栗色の皮膚変色、または血疱（引用:「褥瘡看護技術」照林社）

発赤の場合、ステージⅠの褥瘡を見分ける方法として、透明プラスチック板などが使用されています。

赤くなっている部分を圧迫する
退色する･･･褥瘡でない
赤みはそのまま残っている･･･ステージⅠの褥瘡

■Shea分類ー治療目的、医学領域で主に使用

【日本褥瘡学会「創」評価ツール】

■DESIGN-R®（DESIGN®）ー重症度を分類でき、経過評価可能　D…深さ　E…滲出液　S…サイズ　I…炎症・感染　G…肉芽組織　N…壊死組織　P…ポケット

5 リスクアセスメント

床ずれ発生の予測には、適切な時期に的確にアセスメントするスケールが効果的です。

※リスクアセスメントの結果がケアに直結できる妥当性、信頼性が検討されているスケールを選んで用いることがポイントです。

■ブレーデンスケール
看護師が日常の業務の中で観察・評価できる 6 項目を抽出し、評点化する代表的なスケール。リスクを評点化することで、客観的に判断できるのが特長。

知覚の認知　湿潤　活動性　可動性　栄養状態　摩擦とずれ

■OHスケール
４項目の危険要因を採点し、その合計点により患者を４段階（危険因子なし、軽度、中等度、高度）に分類できるスケール。シンプルで使いやすいのが特長。

自力体位変換　病的骨突出　浮腫　関節拘縮

■K式スケール／在宅版K式スケール
前段階要因と引き金要因の２段階で評価する YES ／ NO 方式のスケール。骨突出の体圧測定により、リスク判定の簡便性と妥当性を第一に考えたスケール。

●前段階要因　自力体位変換　骨突出　栄養状態　介護者の知識
●引き金要因　体圧　湿潤　ずれ　栄養

■厚生労働省危険因子評価
数値化するスケールとは異なり、自立度の低い患者について、1 つでも危険因子があれば、看護計画を立てるという介入に直結する評価リスト。

基本動作能力　病的骨突出　栄養状態　皮膚湿潤　関節拘縮　浮腫

6 身体的特徴

「病的骨突出」「関節拘縮」の方は、床ずれ発生リスクが高くなります。

病的骨突出

仙骨部の高さが臀筋の高さと同じあるいは、それ以上になると、より局所への圧迫が集中します。

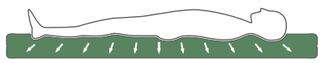
関節拘縮

身体の変形があると、体重を受ける面積が狭くなり、体重がより局所へ集中しやすくなります。特に下肢屈曲拘縮の方の接触圧力は非常に高くなります。

7 体圧分散寝具の役割

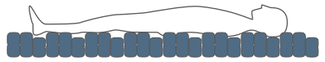
局所にかかる圧力の強さを弱くし、圧力の集中を継続させないことがポイントです。

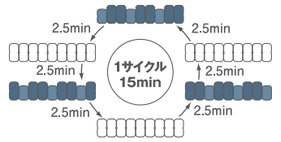
■圧力の軽減
身体の接触面積を増やすことで局所への圧力を分散させる。



単一素材の場合、体重が集中する腰部の落ち込みに要注意。

■時間の継続を断つ
エアマットレス（エアセル）の膨張収縮により、局所に圧力が継続する時間を少なくさせる。

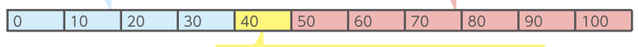




8 体圧危険値の目安

骨突出部位の体圧危険値の目安

0 ～ 40mmHg 未満　床ずれ発生のリスクが低い　　50mmHg　以上床ずれ発生のリスクが高い



40 ～ 50mmHg 未満　床ずれ発生を疑う

（文献）
・須釜淳子ほか：褥瘡ケアにおけるマルチパッド型簡易体圧測定器の信頼性と妥当性の検討.日本褥瘡学会誌,2(3):310-315,2000
・大桑麻由美ほか：新マルチパッド型簡易体圧測定器の臨床における信頼性と妥当性の検討.日本褥瘡学会誌,14(2):129-133,2012

9 ずれ・摩擦

ベッドの頭側挙上を行なう際、身体がずれないように注意が必要です。

■頭側挙上時の身体の位置

身体の大転子部とベッドの屈曲部位を合わせる

■頭側挙上の方法

❶膝関節を屈曲・挙上する
❷頭側を挙上する
（できる限り30°までに留める）
※足・頭の連動機能がある
ベッドの場合は活用する。

■ずれの解消

＜背抜き＞

仰臥位→頭側挙上

❶抱き起こす
❷もたれかからせる

頭側挙上→仰臥位

❶側臥位にする
❷仰臥位に戻す

＜脚抜き＞
体幹にずれが生じると共に、下肢や踵部にもずれは生じています。

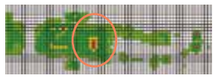
下肢を少し持ち上げ、ずれを解消する

＜腰抜き＞
腰部のずれを解除する他、頭側挙上の際に後傾してしまった骨盤をニュートラルな位置に戻すケアも推奨されています。

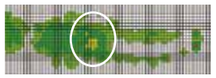
10 シーツの選び方

ぴんと張ったシーツは×　体圧分散効果の妨げとなります。

ルーズフィット or 伸縮性素材でエアマットレス本来の効果を発揮させましょう。



ぴんと張ったシーツ
シーツの張りによって十分な沈み込みが得られず、臀部や骨突出部位に局所的な力が加わります。それにより、エアマットレス本来の体圧分散効果が妨げられてしまいます。



ルーズフィットのシーツ
シーツの張りを緩めると身体全体をエアマットレスが広く受けとめ、エアマットレス本来の体圧分散効果が得られます。

(文献)松尾淳子ほか:ベッドメイキングの違いがエアマットレスの圧再分配機能に及ぼす影響.日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌 17(1):33-39,2013.

エアマットレスには伸縮性のシーツが◎
エアマットレスに使用するシーツは、張力の発生が少ない骨突出部位を包み込むように伸展する伸縮性の素材のものをお薦めします。

伸縮素材のクイックフィットシーツ

シーツや横シーツをご使用の際は、ルーズフィットを心掛けてください。

11 ポジショニング

体圧分散の他、拘縮の予防、姿勢の安定から活動を促すなどの目的があります。

■ポジショニングの目的

「何を目的としてポジショニングを行うか」が重要です。

- 床ずれ対策
- 拘縮・変形予防
- 筋緊張の緩和と調整
- 呼吸の改善
- 浮腫の改善
- 姿勢の安定により活動を促す
- 座位や立位の準備
- 安楽な姿勢作り

大きく分けると2つのポジショニングがあります。

❶身体を安定させ保持する
❷動きを促進し能力や可能性を広げるために支持する

! 広い面で受けると身体は安定しますが、過度のサポートは動きの妨げになることもあるので注意しましょう。